

登録コード	L2830400	開講年度	2026				
担当教員	杉村 泰			副担当			
授業科目	日本語教育学特論						
英文授業名	Pedagogy of Japanese as a Foreign Language: Specialized Study						
授業タイトル	日本語教育における誤用分析とフィードバック						
単位数	2	対象学生		講義期間	前期(集中)	曜日・時限	集中・不定期
講義室	人文第5講義室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			外国人学習者に対する日本語教師や母語話者の言語的フィードバックの特徴とその効果的な方法を学ぶことを通じ、学習者の日本語使用上の問題と、教師や母語話者の意識的・無意識的な日本語運用を分析し検討できる。			
	【2023年度以降加付対象】必要な情報を的確に収集し、理解し、発信する力が身についている。【メディアリテラシー・コミュニケーションリテラシー・外国語能力】			異文化間コミュニケーションに関わる事象を日本語教育の観点から批判的に考え、言語の知識と運用をとらえ直して、コミュニケーションリテラシーを実際のコミュニケーションの場で生かすことができる。			
授業で学べる「テーマ」	多文化協働、キャリア						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	本授業では、外国人日本語学習者の日本語産出に対する日本語教師の誤用分析とフィードバックの方法について学ぶ。日本語学習者の発音、表記、文法などについて、日本語母語話者との違いを観察し、誤用の特徴を分析し、母語転移の可能性や誤用の中に見られる規則性の有無を検討する。その上で、明示的でわかりやすい説明や、学習者の日本語理解と使用を促す教師の指導技術を学ぶ。						
授業計画	第1回：履修ガイダンス / 日本語学習者の日本語作文の添削 第2回：日本語学習者の発話と教師の訂正 第3回：文法シラバスと場面シラバス 第4回：日本語の教科書分析 第5回：日本語の「は」と「が」の指導案の検討 第6回：日本語の格助詞の指導法の検討1（「に」と「と」/「に」と「で」） 第7回：日本語の格助詞の指導法の検討2（「に」と「へ」） 第8回：日本語の格助詞の指導法の検討3（「を」と「から」） 第9回：コーパス（BCCWJ・少納言）を活用した日本語研究 第10回：コーパス（茶漉）を活用した日本語研究 第11回：日本語学習者の誤用とフィードバック1（格助詞） 第12回：日本語学習者の誤用とフィードバック2（動詞） 第13回：日本語学習者の誤用とフィードバック3（名詞） 第14回：日本語学習者の誤用と中間言語 第15回：まとめ・授業のふりかえり（授業アンケート） 定期試験 なお、本授業の計画については可変シラバスを取り入れ、受講学生の理解度により、取り上げるテーマや各回の計画を変更することがあり得る。 講義日程 8月5日 1限～4限 8月6日 1限～4限 8月7日 1限～4限 8月10日 1限～4限（オンライン）						
成績評価の方法	以下の2点とその割合によって、先に挙げた本授業の目標の達成度を測り、評価する。 授業15週の授業への参加度（50％）・授業15週終了後の最終の定期試験（50％） 学期末に行う定期試験（100点満点）では、15回の授業で取り上げた事象について論述を求めます。						
成績評価の基準	毎回の授業においても定期試験においても、日本語学や日本語教育における基本的な知識で問題が解ければ「合格水準にある」、自分なりの例を示して解答ができれば「やや上にある」、適切な例文を示し、自分の新しい考えで解答ができれば「かなり上にある」、内容が斬新でかつ説得力のある論述ができていれば「卓越している」。						
事前事後学習の内容	次回の授業で扱うテーマについて、適宜授業内で提示し、次回の授業までに考えてくる。これを元に次の授業で討論を行う。また、討論によって新たに出た課題について、事後学習として考えて来て、次の授業で再検討を行う。						
履修上の注意	1) 講義形式の授業であるが、毎回課題を出し、受講生の積極的な発言を求める。 2) パソコンを使った言語分析を行うため、Wi-Fiの使える個人用のパソコンを持参すること。						
質問、相談への対応	授業の前後またはメールで随時受け付ける。（sugimura.yasushi.j7@f.mail.nagoya-u.ac.jp）						

教科書	使用しない。授業の中でレジメや資料などを配布する。
参考書	授業の中で適宜、紹介する。